

ウェルビーイング目指す新構想

初PJに中央日土地、中央住宅も参画

総合建設業のファーストコーポレーション（東京都杉並区、中村利秋社長）が9月14日、新たな開発コンセプト「ウェルビーイングシティ構想」プロジェクトを始動し、併せて同プロジェクトに基づく分譲マンション新ブランド「CANVAS（キャンバス）」を立ち上げたと発表した。新ブランドの初物件には、中央日本土地建物とポラスグループの中央住宅も共同事業者として参画する。

◇ ◇

同プロジェクトは、「身体的・精神的・社会的な健康状態の調和」を目指す構想で、主に中年層から高齢者の暮らしの健全さや充実性に焦点を当てている。中村社長は同日の

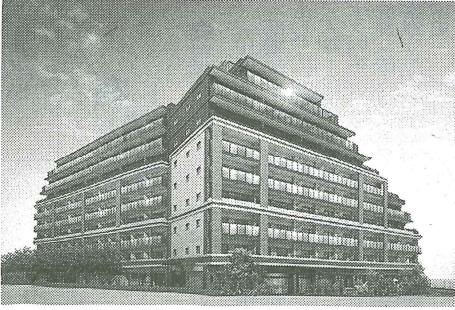


㊦記者発表会で新構想の概要を語る中村社長 ㊧「キャンバス南大沢」の外観イメージ

記者発表会で、「マンションにおけるサービスの再構築により、新ジャンルのマンションとして提案するプロジェクト。今後はマンションという住まいだけでなく、その後のサービスも提供していくことで持続可能な社会の構築を目指したい」と趣旨を語った。また同構想および新ブランドの発足に伴い、物件の販売・管理や竣工後の各種サービス運営を一貫して担当する子会社としてファーストエボリューション（須藤憲綱社長）が設立されている。

シニア焦点に多彩なサービス

この構想の実現へ向けて立ち上げた新ブランドでは、50代から70代までの世帯を主な



ターゲットとして設定し、医療機関や介護事業者との連携による高水準な健康支援体制を構築。加えて、レストランや出張調理サービスといった飲食分野をはじめ、ゴルフや旅行などのレジャー、相続相談等への対応、入居者専用の畑など、生活の質の向上を図るための設備・サービスを数多く導入する予定だ。

「これからのニーズに対応」

同構想および新ブランドの第1号物件は、東京都八王子市で開発する「キャンバス南大沢」。京王相模原線多摩摩境駅から徒歩16分の立地で、隣にある同線南大沢駅や同線・JR線の橋本駅との間のシャトルバス運行を予定。敷地面積は約5270㎡で、建物は9階建て、総戸数は181戸。間取りは1DK～3LDKで販売価格は未定としている。購入に当たっては年齢制限等は設けない。販売開始は22年1月中旬、竣工は同年10月中旬を見込む。

同日の記者発表会では、「南大沢」プロジェクトの共同事業者として名を連ねる中央日土地の初澤剛専務と中央住宅の品川典久社長も参加し、同構想に賛同の意を示した。

ファーストコーポレーションは今後、1都3県を中心に、同構想に基づく住宅を年2棟程度供給していく考え。